

2010年度

科目名	文化財学特殊研究(文化財形態論)			
担当教員	阪田 宗彦			
配当	文修1		コード	24740
開期	通年	講時	火曜日4限	単位数 4
授業テーマ	上代工芸論(正倉院宝物)			
目的と概要	上代工芸は国際性豊かな盛唐文化を垣間見させるもので、その中核を占める正倉院宝物に勝るものはない。本講では個々の宝物に視線をあて、素材・意匠・技法・装飾文様について詳述し、宝物そのものの理解を図るとともに、8世紀の唐文化の受容の一端を探る。 スライド、DVD、VHSを使用する。			
成績評価法	受講態度(50%)および研究成果(50%)によって評価する。			
テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	使用しない。			
履修に当たっての注意・助言	第1回目の折にくわしく説明します。			
講義計画				
1.	序章			
2～4.	北倉納物の素材・形状・制作技術・意匠等を把握し、可能な限り宝物の全容を認識する。			
5～7.	中倉納物の素材・形状・制作技術・意匠等を把握し、可能な限り宝物の全容を認識する。			
8～10.	南倉納物の素材・形状・制作技術・意匠等を把握し、可能な限り宝物の全容を認識する。			
11.	宝物の濫觴—光明皇后による五度の東大寺大仏への献物と献物帳・帳内御物			
12.	国家珍宝帳の宝物—その記載の構成は？			
13.	宝物にみる国際性—東西交渉史考察の切口になる。			
14.	宝物にみるインド的要素			
15.	発表と試問			
16.	宝物にみる新羅的要素			
17.	宝物のもつ特質の一つ「伝世—地上で単一民族」の意義は？			
18.	発表と試問			
19.	1250年にわたる伝世という事実と文化遺産保存の哲学は？			
20.	宝物の保存修理の歴史とこれからの保存修理のあり方は？			
21.	宝物の研究模造については？			
22～29.	宝物の現状に対する多様な問題点			
30.	発表と試問			